

第3回高齢者施策推進委員会に対する質問・ご意見

	質問・ご意見	区の取組状況
1	<p>目標3 認知症ケアの項目について、かつて認知症カフェにボランティアとして行った際、利用者から「『認知症カフェ』と銘打たれてしまうと抵抗感がある」というご意見を伺った。これについて「柔らかいネーミングに変えられないか」と介護保険課に相談したところ、「運営補助金として公金が出ている以上、はっきりとわかる名称でないといけない」と回答を受けた。また、区報にも大きく認知症と書かれて利用者が写真で出たことがあり、利用者がつらい思いをしたことがある。</p> <p>利用者に寄り添うのは現場の仕事であり、企画立案ではその必要はないという制度設計は少し配慮していただきたい。</p>	<p>様々なカフェが存在する中、「認知症カフェ」とうたうことで、専門相談員や地域のさまざまな担い手とともに、認知症の人やその家族、そして認知症ではない方も身近な場所で安心して交流できる場となっています。国においても、認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場として、「認知症カフェ」と標榜しています。引き続き「認知症カフェ」の目的や活動内容を周知していくことにより、地域の方々が、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、偏見のない、地域共生社会を目指していきます。</p>
2	<p>目標4 医療の項目について、在宅医療を受けるに当たって、その前段階で入院が必要な程度の大いアクシデントに遭っているのではないかと想定されるが、民生委員のもとには「来週（または今週）退院するが、介護保険の受け方を教えてほしい」というような相談が寄せられる。そのため、もう少し時間に余裕を持って介護に触れてもらう機会があると、退院から在宅医療へのシフトがスムーズなのではないかと思う。切れ目のない支援体制のため、一歩先を読む展開をお願いしたい。</p>	<p>総合的な相談は、おとしより相談センターが行っております。また、「医療・介護関係者のための在宅療養支援の手引」にて、医療機関は、入院前もしくは入院直後から退院支援・在宅療養支援の必要性を判断するための状況把握を行い、退院支援につなげていくことを周知しています。</p> <p>今後も在宅療養支援協議会等で医療と介護の連携を図るなど、切れ目のない支援体制を強化していきます。</p>
3	<p>目標6 住まいの項目について、中央区の住まいの特徴は高層マンションに象徴される集合住宅に焦点が行きがちだが、現状で残っている戸建住宅のほとんどが高齢者の住まいと言っても過言でなく、特にご自宅で商売をされていた建物の使っていない1階と、狭い階段で登っていった2階のリビングという住宅では介護のために改修することが困難であるにも関わらず、どの集合住宅の住民よりも住み慣れた自宅で一生を終えたいという意識の強い方々が多いように感じる。「中央区スタイルの地域包括システム」として、議論をしてほしい。</p>	<p>戸建てにお住まいの方々にも、身体機能の低下により住宅設備の改善が必要になった場合に改修費を支給するサービスを行っています。要件の確認や事前の申請等の手続きが必要なことから、おとしより相談センターや担当ケアマネジャーへのご相談を案内することで対応しています。</p>

第3回高齢者施策推進委員会に対する質問・ご意見

	質問・ご意見	区の実施状況
4	<p>目標6 住まいの項目について、施設入所と在宅介護の中に大きいグラデーションがある今、限られた資源の中で多様な介護ニーズに対応するために、介護保険の適正な運用でケアする他にないかと考える。公的サービスだから、民間営利だからというイメージだけで判断せず、医療が保険証一つで公立も私立もなく同じ医療を受けられるのと同じ目線で、根っこは介護保険制度で繋がっており、均質な介護サービスを受けられることを計画に盛り込むべきではないか。</p>	<p>どのような住環境においても、区民の方々が適切な介護サービスを均一に受けられるよう、本計画に基づき、地域包括ケアシステムを深化・推進していきます。</p>
5	<p>基本理念の最後の3行にある「・・・、高齢者が住み慣れたまちでいきいきと暮らし続けられるよう、・・・」の「いきいきと」という表現は、「必要なサービスや支援を受けながら、ひととしての尊厳にふさわしく」といった表現にするのはどうか。</p> <p>それに関連して目標2 生活支援の「(3) 地域で支えあう仕組みづくり」についても、「地域にあるさまざまな資源を動員することにより、必要なサービスや支援を受けながら、ひととしての尊厳にふさわしい暮らしができるような仕組みづくり」に修正してはどうか。</p>	<p>P50に記載されている基本理念の「互いに支え合い、自分らしくいきいきと暮らせるまち」の「自分らしく」に「ひととしての尊厳」という意味を包含しています。</p> <p>P51の最後にあるご指摘の文については「高齢者が住み慣れたまちで尊厳を持ちながら、いきいきと暮らし続けられるよう」に改めます。ここに記すことにより、個々の項目での記載はせず、本計画全体にかかる基本的な考え方を示すこととします。</p> <p>P52の「第9期計画で取り組むべき課題」の「健康づくり」については、ご提案の文言に修正します。</p>
6	<p>第9期計画で取り組むべき課題にある「健康づくり」のうち、「誰でも参加しやすい事業の実施や周知の工夫」は、「誰でも参加しやすい環境整備や事業の実施・周知の工夫」にしてはどうか。</p> <p>また、「認知症ケア」のうち「地域で暮らす視点からの権利擁護支援」は、「地域に必要なサービスや支援を受けながら、ひととしての尊厳にふさわしい暮らしの確保の視点からの権利擁護支援」としてはどうか。</p>	
7	<p>目標6 住まいの「(2) 快適な住まいと住環境を確保するための支援」は「人としての尊厳にふさわしい(またはディーセントな)住まいと住環境を確保するための支援」にしてはどうか。</p>	

第3回高齢者施策推進委員会に対する質問・ご意見

	質問・ご意見	区の実施状況
8	<p>目標1 健康づくり（介護予防）の「（2）社会参加と生きがいづくりの推進」における上から2行目後半「・・・高齢者が主体的に活動できる環境づくり・・・」は、「・・・高齢者にとってアクセスしやすく、利用しやすく、かつ、そのニーズに沿った施設・設備・プログラムづくり」にしてはどうか。</p>	<p>P62の2行目から4行目にかけての文については、ご意見を踏まえ、「高齢者が主体的に活動できるよう、利用しやすい施設・設備の配慮や有益なプログラムの提案などの環境づくりを推進していきます。」に改めます。</p>
9	<p>粋トレの普及について、現在は通いの場への誘い出しや映像媒体貸出などで高齢者の方に重点を置いているが、基本理念にもあるとおり、時間の経過とともに次々と高齢化してくる事を考えると、世代を分けずに粋トレに接する機会を作ることはできないか。例えば、ラジオ体操やテレビ体操のように、「こんにちは中央区です」の番組等、メディアの利用で決まった時間にいつも放映、放送することで、チャンネルをあわせれば誰でも実施できれば、参加のハードルも下がると思う。また、詳しくは通いの場で教えている事を広報すれば通いの場の広報にもつながるのではないか。</p>	<p>現在、世代を分けずに粋トレに接する機会については、健康福祉まつり等、世代を問わず参加できる区のイベントで周知を行って普及に努めています。</p> <p>メディア利用については、ケーブルテレビの活用、江戸バス内での広報等過去に検討を行いました。経費の問題から実現に至らなかった経緯があります。</p> <p>まだまだ粋トレの認知度が低いのは認識しております。今後も、DVDの配布やYouTubeでの動画配信、区公式SNSで粋トレ教室の広報等を継続して行うなど、高齢者という枠に捉われず、様々な機会を通じて周知を図っていきます。</p>
10	<p>目標2の「（1）包括的な相談機能等の充実」について、「おとしより相談センター」という名称によって、利用者を限定しているような印象を受け、地域包括支援センターの認知度の低下につながっているのではないか。私自身、家族の入院で退院が決まった折、病院の看護師やケースワーカーの方からその存在を知ったが、利用者本人も知らず、名称から高齢者の方しか相談できないものと誤解をしていた。また、必ずしも利用者本人から連絡相談するのではなく、家族から相談する場合もあるのではないか。もう少し支える側へセンターの役割等を伝え、窓口の利用に関し認知度を上げるべきではないか。</p>	<p>高齢者に関する総合的な相談・支援機関である「地域包括支援センター」を区民にとって親しみのある分かりやすい名称として、「おとしより相談センター」としてしています。高齢者やその家族、地域住民が気軽に相談できるよう、また、令和6年度には晴海おとしより相談センター（仮称）を開設することもあり、引き続きおとしより相談センターの周知を図っていきます。</p>
11	<p>参考資料1の第2回委員会に対する質問・意見の3について、利用者の身近な部分としては各々の調査、ケアプランの作成活用でいいと思うが、実際のサービス提供や課題解決のためには、成年後見制度のあり方や介護職員の育成、どのような専門職（スキル）が必要かなど、国や自治体レベルの計画への反映になるのではないか。</p>	<p>高齢者の生活実態調査の調査項目等において、データ分析の精度を上げる工夫をし、さらに区民ニーズや課題を明らかにすることにより、次回以降の計画に的確に反映させていきます。</p>

第3回高齢者施策推進委員会に対する質問・ご意見

	質問・ご意見	区の実施状況
1 2	<p>高齢者のスマートフォン利用について、教室や講座を実施することは大きな役割を果たしていると思う。しかし、実例で新しいものを覚えることが視覚・聴覚・触覚の衰えで難しく、煩わしく面倒だと投げやりになってしまうことがあり、紙ベースや電話相談ではフォローしきれていない。本人操作の横でのサポートや操作代行する役割の部門立ち上げや人材投入を考えるのはどうか。高齢者の中でも得意な方がいれば、その方の居住地域や通いの場でリーダーや係を担ってもらうなど、職や生きがい・支え合い、交流のきっかけになるのではないか。</p>	<p>現在スマートフォン講座については、教室形式の講座と合わせ、利用者個々の困りごとに合わせた相談会も敬老館、シニアセンター等で実施しています。</p> <p>また、令和4年度から社会福祉協議会において試行的に区民が高齢者のスマホに関する困りごとをサポートする『スマホさえ隊』の養成講座を開催しています。講座修了者は、敬老館や社会福祉協議会のスマホ相談会等で活躍しており、順次活動場所を増やしていく予定です。</p> <p>その他、スマホ相談と交流を行う地域活動団体があり、社会福祉協議会が継続的な支援を行っています。</p>
1 3	<p>耳慣れない言葉が資料に使われていると、理解するのに時間がかかるのでもう少しわかりやすい言葉を使ってほしい。専門の方々には普通のワードでも一般人には理解困難である。</p> <p>例) ダブルケア、PDCAサイクル、アウトリーチによる支援、シルバーピア、レスパイトなど</p>	<p>用語解説を追記します。</p>
1 4	<p>認知症初期集中支援チームに関しては、中央区バージョンとしては「医療につながっていない方」が主となる。そのような認知症相談をおとしより相談センターでは日々受けているが、初期集中チームを調整する前（調整に時間がかかる）に一般相談（総合相談）対応で医療につながったり、関係者でチームを作り解決方向に向かうことがほとんどである。そのため初期集中チームとしての実績は低くなるが、おとしより相談センターの認知症相談の中で、初期集中支援チームレベルの対応件数は増えていると思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>